

佐賀県研究成果情報

機械摘み品評会原料園における茶の摘採適期

[要約]

成木園の品評会茶原料に適する摘採時期は、頂芽および最上部の側芽が 3 葉期に達した頃であり、その時期に秋整枝面より 35mm 上げた位置で一心二葉摘みをすることにより、荒茶の形状が小さく、香気、滋味に優れる。

佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当

連絡先

0954-42-0066

部 会 名

茶業専門部会

専 門 栽培

対 象

茶

[背景・ねらい]

品評会茶の生産において、摘採時期の決定は特にその品質を左右することから慎重かつ的確な判断を有する。そこで、摘採時期と摘採位置の違いによる荒茶品質を調査し、品評会茶に適する摘採法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 . 3 葉期から 4 葉期頃の新芽上位部の全窒素含有率は 6.5%以上と高い(図 1)。
- 2 . 摘採時期は、3 葉期頃に浅く(秋整枝面より 35mm 上)摘むことにより形状、香気、滋味に優れる(表 1)。また、荒茶の内容成分も 3 葉期の摘採が 4 葉期の摘採よりもアミノ酸、テアニン含有量が高く NDF が低い(表 2)。
- 3 . 摘採量は、秋整枝面からの高さを 30mm から 35mm の位置に上げることにより約 100g/10m² 減少する(表 2)。

[成果の活用・留意点]

- 1 . 茶品評会出品茶園の摘採時期の目安として利用できる。
- 2 . 品種名「やぶきた」(19 年生)での結果である。また、中切り 2 年目、前年二番茶後浅刈りを実施した圃場で、秋整枝時の母枝数は 525 本/m² である。
- 3 . 摘採葉期の決定は頂芽および最上部の側芽のみを判断する。
- 4 . 3 葉期に浅摘みを行うためには、出品量目に見合った生葉収量が得られる茶園面積を確保する。
- 5 . 年間の施肥窒素量は 50kg/10a である。

[具体的データ]

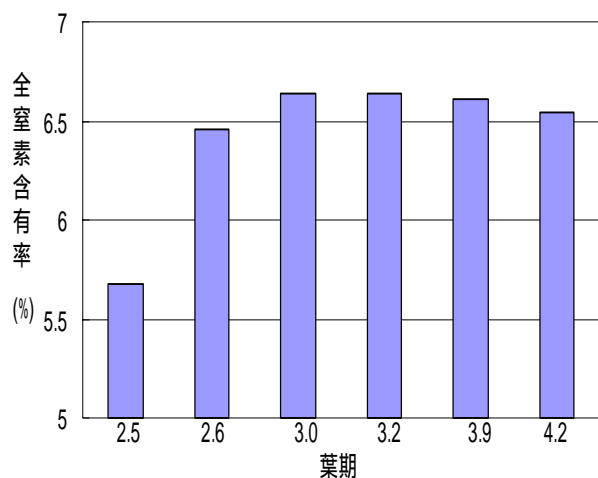


図1 各葉期における一心二葉の全室素含有率 (調査固体数 32 本)。



写真1 秋整枝面より 35mm 上での摘採面



写真2 秋整枝面より 30mm 上での摘採面

表1 摘採時の葉期および摘採位置の違いと官能審査値 (2007年一番茶)

葉期	摘採日	摘採位置	外観 (20)	水色 (30)	香気 (75)	滋味 (75)	審査 合計
3葉摘採	4月26日	35mm	15.5	26.0	71.0	71.0	183.5
3葉摘採	4月26日	30mm	14.5	22.0	67.0	68.0	171.5
4葉摘採	4月28日	35mm	13.0	25.5	67.0	66.0	171.5

秋整枝面からの高さを表す

表2 摘採時の葉期と荒茶成分(%) (2007年一番茶)

葉期	摘採日	摘採位置 ¹	生葉量 (kg/10a)	全室素	アミノ酸	テアニン	タンニン	NDF ²
3葉摘採	4月26日	35mm	68	6.1	3.3	1.8	12.0	14.0
3葉摘採	4月26日	30mm	77	6.2	3.5	1.9	12.1	13.7
4葉摘採	4月28日	35mm	145	6.0	3.3	1.8	11.5	14.6

¹ 秋整枝面からの高さを表す

² 中性デタージェント繊維

[その他]

研究課題名：高品質茶葉安定多収のための革新的栽培技術の検討

予算区分：県単

研究期間：2003～2009年

研究担当者名：山口史子・釘本和仁・東島敏彦

発表論文等：